

<神とその恵みの御言葉にゆだねられて> 使徒の働き 20 章 32-38 節

□世界の食糧問題

- ・今、世界中で年間 900 万人の人たちが一日に 1 食も食べることが出来ず、飢餓で亡くなっている。(これは世界人口の 11%を占める人数にあたる。)
- ・食料危機や栄養不良を招く主な原因は・・・内戦や紛争。さらに、このたびの新型コロナウイルスの感染拡大による経済の悪化。そして、これらは食糧問題の他にも少年少女兵、教育など様々な問題の要因となっている。

Q：もっとたくさん食べ物を作ったら問題は解決する？

→世界の年間食品生産量は 43.3 億トン。一方、年間食品廃棄量は 13 億トン。

※食料は十分ある。けれども、約 3 分の 1 は食べ残し、買い過ぎなどで捨てられている。

Q：日本人の一人当たりの年間食品廃棄量は世界で何位だと思いますか？



Q：私たちにどんなことが出来るだろう？

- ・「賞味期限」は食べられなくなる期限ではない。「賞味期限」は「おいしい目安!」
- ・「消費期限」は傷んでしまう時期が早い食品。だから期限を守って食べましょう!
- ・計画を立てて食材を買うこと。残り物などを美味しく食べる工夫をすることなど。

□Imagination (イマジネーション) を働かせよう! =想像力、思い描くこと。

- ・私たちがより良く物事や人と関わるには想像力、思い描くことが必要。「これをしたらかのどんな気持ちになるだろう?」「これをしたら、この先どうなるだろう?」
- ・何気ないような日常のささやかなことのようにも、私たちのしている小さな事が大きな世界の影響に関わっているのです。

□『受けるよりも与えるほうが幸いである。』

- ・福音書の中にはどこにも出てこない言葉。それがかつて神の教会を迫害していたパウロが、大事なこのイエス様のことばを伝えてくれた。
 - ・イスラエルの諺【死海のような人ではなく、ガリラヤ湖のような人になりなさい。】
- ・元々この言葉は、伝道者パウロが、エペソの教会の長老たちに告げた別れの言葉の中で引用されたもの。

32節。『いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中であって御国を継がせることができるのです。』

パウロはここで、神の御言葉がもたらす二つのことについて語っている。

- ① 聖徒たちを育成する力。「育成」＝「家を建てる、建築する、」という意味の言葉。信仰者たちと一緒にあって、ひとり一人がかけがえのないキリストのお体の各器官として、体全体が建て上げられていく。
- ② 聖徒たちに御国を継がせることができる。御国＝神のご支配。神と共にその恵みの中に生かされる暖かな関係。

神がまず私たちに大きな恵みを与えてくださった。それが大前提であり、出発点。私たちはまず、神から「受けること」を、真剣に考えなければならない。

パウロはこの恵みのゆえに、エペソの教会の仲間たちに模範となる生き方を示した。

35節。「主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来た』

＝ここでもパウロは人々を神とその恵みのみことばに委ねようとしている。

私たちに与えられた神の恵みもまた、困難な中にある人たちの隣人となって助けを与えるためである。主イエスが私たちに与えて下さったいのちの恵みは、私たちのうちからあふれ出て、私たちの周りにいる人たちをも潤していく。神様は私たちを用いて、救いの御業をさらに広く行おうとしておられる。それはまるでガリラヤ湖のようだ。